

# 資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



### 『鉄道から見たインド発展の軌跡 ——世界最大級の路線網をつくった人と技術』

高津俊司著

成山堂書店発行

2026年5月／3,080円（税込）

所蔵箇所：信濃町

本書は、インド初的高速鉄道プロジェクトに関わった鉄道コンサルタントが、鉄道を通してインドの歴史と発展の経緯をまとめたものである。

まず、インド国鉄の概況や日本との鉄道分野の協力関係などが紹介されている。インドは、世界有数の鉄道大国である。現在、環境に配慮した経済的な輸送システムの構築をめざし、全国鉄道計画が進められている。日本からの協力案件も、デリー・メトロ、インド貨物専用鉄道建設計画、ムンバイーアーメダバード間高速鉄道計画など拡大しつつある。次に、1853年にアジアで最初に開業したインドの鉄道の歴史を、東インド会社統治時代、イギリス植民地時代、独立後のインドの各時代に区分してまとめている。そして、植民地時代までの鉄道整備による波及効果については、特に20世紀以降、鉄道事業の収益は幅広い産業に寄与し、人びとの共同体意識を高め、インド独立運動にも大きな影響を与えたと指摘している。

本書は、現地情報や多くの資料を参考に執筆されている。また、写真や図表も多く掲載されており、実務にも有益な資料である。（古森）

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 「沿線開発の歴史」を辿る

[1] 『小林一三全集』（全7巻）小林一三著  
ダイヤモンド社発行、1961年～1962年

[2] 『鉄道整備と沿線都市の発展』高津俊司著  
成山堂書店発行、2008年6月

[3] 『筑波研究学園都市論』三井康壽著  
鹿島出版会発行、2015年6月

所蔵箇所：上野（一般公開中）

特集テーマにちなみ、今回は沿線開発の歴史を辿る所蔵資料を紹介する。

日本の沿線開発の源流は、阪急電鉄の創業者・小林一三が進めたビジネスモデルにある。都心の百貨店と郊外の娯楽施設を一体で開発し、鉄道からの運賃収入と沿線の宅地販売収入の両輪で事業の成立を目指した。これは「郊外に住み、都心へ通勤する」ライフスタイルそのものの提案であり、事業者主導による需要創造の成功例となった。

この一体開発のモデルは「交通政策と都市政策の融合」に形を変え、現代にも受け継がれている。宅鉄法の適用により自立都市の形成と人口定着を図った、つくばエクスプレスの事例がその一つだ。その開発過程は、事業者単独での開発が難しい現代において、自治体との公民連携が欠かせないことを示している。事業者のノウハウを活かしつつ、自治体がより主体的に関わることが重要である。

当資料室では、これらに関連する著作、社史、伝記文献も多く所蔵している。ぜひご活用いただきたい。（原）

## 資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

